

まいづる元気人 Vol.56

人や地域と元気を連結

「和」みや「話」すこと、人とのつながりの「輪」といった「わ」を大切に、平野屋商店街で表具店を営み、その一方で舞鶴市社会教育委員会議長など、さまざまな役柄を掛け持つ福原さん。昨年、北近畿鉄道ビジネス株式会社を立ち上げ、代表取締役社長も兼務。たくさんの役柄を掛け持ちする理由や大切にしている思いなどお話を伺いました。



福原表具店代表
北近畿鉄道ビジネス㈱など
福原習作 さん

趣味は吹奏楽と鉄道
舞鶴で生まれ育ち、専門学校進学でいったん舞鶴を離れ、2年後に帰郷。量販店で6年働いた後表具店に務め、平成18年に福原表具店を独立開業した。趣味は幼少期から好きな鉄道と部活動で熱中した吹奏楽だ。妻のルミ子さんと続けていた吹奏楽では、平成4年に舞鶴市民吹奏楽団の立ち上げにも携わり、初代の理事も務めた。結成時の活動は練習のみだったが、発表する機会が欲しいというメンバーの声から定期演奏会を企画。今でも継続される活動となった。また、他市の有名吹奏楽団とのつながりもでき、演奏会に駆け付けてくれるほど親しくなった。子育て中はPTAの会長などを積極的に引き受け、幼稚園から現在まで地域を含め、たくさんの人脈ができたという。その後、もう一つの趣味であった鉄道関係でルミ子さんも巻き込みボランティアで活動をしてきたが、赤れんがフェスタをきっかけにイベントの規模が大きくなり、ボランティア活動の限界を感じたという。同じく親の会社であるWILLCOR

人とのつながりがモットー
表具店の仕事は家まつわることから人口が大きく関わり絶対数が多いと表具店の仕事も多くなる。そのためにも子育てしやすいまちだと人が増えやすいのではと考え、親子向けの鉄道イベントを多く手掛けている。何より子どもが好んでその姿を見て笑顔になる保護者を見るのも好きなのだという。子ども達からよく「何もなし」ということを聞くが、何もなしなら自分たちで作ればいい。何か新しいことをすると新しい出会いがあり、たくさんの人とつながることができる。知り合いから

人伝いに新しい人を紹介してもらえたり、そういった人のつながりは仕事にも生きている。「〇〇のこと知らない？」と聞かれることがあれば「〇〇のことなら福原さんのところがあるよ」と紹介してもらえたりする。「たくさん役を引き受けているとそれを見てくれる人がいて、仕事以外のことを頑張っていると仕事も充実してくるんですよ」と笑う。
たくさん輪ができ、地域が元気になれば人が元気になる、人が元気になる地域も悪くないが、できるだけたくさん連結し、いろいろな車両でにぎやかに楽しく走る列車もいいのではないだろうか。



▲7月15日の鉄道イベントの様子



人権の輪

子どもの人権を守るのはだれ？

「もうパパとママにいわれなくても しっかりとじぶんから きょうよりもっとあしたはできるようにするから もうおねがい ゆるして ゆるしてください おねがいます…」

今年3月に、両親から虐待を受け亡くなった5歳の女兒がノートに書き残した文字です。必死に生きようとする子どもの悲痛な叫びが聞こえてくるようです。幼稚園などに通っていなかったこともあり、第三者の目が届きにくい中、両親は、1月下旬ごろから、子どもが太っているからと十分な食事を与えずに、栄養失調に陥らせて放置。また、虐待が発覚するのを恐れて病院にも連れて行かなかったという、大変痛ましい事件です。

この事件にとどまらず、誰にも助けを求めることができないような幼児や児童を、親などが虐待する事件が後を絶ちません。虐待は、周囲の目に付きにくい家庭の中で起こっていることが多く、虐待が明らかになるときは重大事件になっていることが多いと言えます。虐待に至る背景の一つには、子どもの声を一番身近で聞くことのできる親が、子どもの声に耳を傾けず、一方的に親の考えを押し付けてしまっていることがあるように思いま

す。たとえ、保護者にどんな事情があっても、その矛先を子どもに向けることは許されることではありません。子どもも一人ひとりが権利と尊厳を持ったかけがえのない存在です。

児童福祉法では、保護者は、児童を心身ともに健やかに育成することについて第一義的責任を負うとされ、その保護者を国民・国・地方公共団体が支え、社会全体で児童を健全に育成する責任を負うことが示されています。子どもの人権を守るのは社会の責任です。助けを必要とする子どもは、何らかのサインを発しているはずで、「子どもの泣き声や親の怒鳴る声が聞こえてくる」「顔や腕に殴られたような痕がある」などは、子どもからのSOSなのかもしれません。「おかしいな」と感じたら、声をかけたり、関係機関に相談・連絡をしてください。子どもは社会の宝です。家庭だけでなく、学校や地域など社会全体で子どもを守り、育てる意識を持ちましょう。

相談は、市の子どもなんでも相談窓口（☎66・2120）か、児童相談所全国共通ダイヤル（189：いちばやく）へ。

《人権啓発推進室》

映画「手紙」上映会 ～絆とは 罪を償うとは～

さまざまな人権について考えるきっかけとなるよう、啓発事業として映画上映会を開催します。今回は罪を犯し服役している兄と、弟の間で交わされる手紙を通して「絆とは何か」「罪を償うとはどういうことか」を問いかける東野圭吾原作の映画「手紙」の上映会を開催します。

【出演】山田孝之・玉山鉄二・沢尻エリカ

【監督】生野慈朗

【日時】8月25日(土) 13時～15時30分

【場所】商工観光センター

【内容】映画の上映のほか舞鶴地区保護司会の桑村信慶さんによる講演も。



【その他】字幕、要約筆記、補聴器用磁気ループ席、無料託児あり（無料託児は8月13日(月)までに要予約）。

【問い合わせ先】人権啓発推進室（☎66・1022、FAX 62・9891）

男女共同参画セミナー ～自分らしさを大切に生きるために～

家庭や職場、地域などで各個人の持っている能力を十分に発揮できるような人材の育成やチャレンジの支援を目的に、男女共同参画セミナーを以下のとおり開催します。

【日時・内容】

◆9月4日(火) 13時30分～15時30分…辻真吾さんによる講演「自分も相手も大切にするコミュニケーションのコツ」

◆9月11日(火) 13時30分～15時…坂本真理さんによる講演「こんなときどうする!? 身近な物でそろえる家庭の防災」

◆9月18日(火) 13時30分～15時30分…今西ゆかりさんによる講演「捨てるから始めない 自分らしい片づけ方」

【場所】中総合会館

【定員】先着各30人

【その他】託児あり（要予約・1人1回につき300円）

【申し込み方法】

各回の4日前までに電話かファクス、電子メールで人権啓発推進室（☎66・1022、FAX 62・9891）へ。右上のコードからも申し込み可。



スマホ(左) 携帯(右)



まいづる 花図鑑

vol143



スベリヒユ (スベリヒユ科)

各地の畑などに生える雑草。日当たりの良いところでよく育つ。莖は赤味を帯び丸く肉質でよく枝分かれし地面を這う。葉も肉質で無毛、へら状で長さ1.5～2.5センチ、枝先に集まって付く。

夏、枝先の葉の中心に柄のない黄色の5弁花を数個付ける。花は日光を受けて開き、午後にはしぼむ。果実は丸く熟すると上半分が取れ、たくさんの小さな種子が現れる。

名前の由来は「滑りヒユ」で、ゆでて食べると滑らかなことから。

【協力】瓜生勝朗/市文化財保護委員（植物分野）